みちくさ

2015.10.9　No.12

１学期終了です

この頃子どもたちの姿を見ていると，あれ？また少し背が伸びたのかなと思う子が何人もいます。4 月の入学式・始業式から半年経ったのですから，当たり前ですね。学校で生活している子どもたちは，日々新しいことの連続です。毎日を大事に，充実した時間にできたのは，ご家庭のご協力があったからと感謝しております。目に焼き付け心で感じながら，心も体も大きく伸びたことでしょう。１学期終了になりますが，また２学期もよろしくお願いします。

５年生の野外活動が無事に終了しました

10 月 2～3 日と，5 年生が泉ヶ岳に野外活動に行ってきました。台風並みの低気圧が通過している中でしたので，登山は無理かとも思っていたのですが，無事に頂上まで登ることが出来ました。無事でなかったのが私自身の脚力でした。毎年のように付き添いで登っておりますが，今年は意図的に最後にくっついてようやく登ったという感じでした。「校長先生大丈夫～？」と子どもに言われてしまいました。孫にせっつかれている爺様の心境になりました。

活動の中で，とても心に残った場面がありました。互いに声を掛け合い，励まし合って登山をしたり，疲れた子の荷物を持ってあげたりと，子どもたちの思いやりがいたるところで見られたことです。一泊でしたが，盛り上がったキャンプファイヤー，部屋での友だちとの楽しい生活など，思い出満載の野外活動になりました。

祝！芳賀先生ご結婚

3 年 1 組の芳賀達也先生が，明日，ご結婚をされます。彼の郷里である秋田県の湯沢市で式を挙げることになっています。おめでとうございます。

２４人も居たの？

1 学期終業式では，ノーベル賞のことについてふれました。今週大きくニュースに取り上げられましたから，子どもたちも関心を持ってくれていたかと思います。ところで，日本人で２４人もノーベル賞受賞者がいたとは，改めてびっくりです。私が小学生の時は，2 人だけでしたから，半世紀の間でこんなに実績を積んだ人が増えたのですね。素晴らしいことです。終業式では，いつかみんなの中から，片平出身者の中からノーベル

賞受賞者が出てくると素敵だなという話をしました。文化勲章受章者が 3 名もいらっしゃいますから，次はノーベル賞を待望しましょう。

変化していく日本語

TV から出てくる会話を耳で聞いていて，「あれ？今の日本語，使い方がおかしくないか」と思うことが時々あります。未だに違和感を覚えている使い方に，「全然大丈夫です」「全然明るいです」といった誤った使い方です。「全然」という言葉は「～ない」という打ち消しや否定の言葉とくっついて使われるのが正しい使い方でしょう。

・・・と，ばかり思っておりました。実はこれは間違いであるとは言えないのです。「全然～ない」と全否定の使い方をするようになったのは戦後であるということです。戦後生まれの自分としては，この使い方しか知らないのです。でも明治の文豪夏目漱石も，坊ちゃんの中で「一体生徒が全然悪いです」という表現をしております。漱石だけではなく，森鴎外や芥川龍之介の作品の中にも，普通に使われている表現です。否定表現を伴わず「すっかり，ことごとく，完全に，全面的に」といった意味になります。こうしてみると，日本語というのは，時代でいろいろ変わっていくものだということです。

さらに，最近違和感を覚えた言葉に「やばい！」という言葉があります。元々「具合の悪い様」「不都合なこと」を表す形容動詞を形容詞化したものが語源であると言われています。どちらかというと「大変だ」といった否定的な時に使われる言葉であると思っておりましたし，自分もそういう使い方をしていたのですが，最近の若い人から出てくる場合では，肯定的な使われ方をしている例が多いです。「このケーキ，やばいかも」というのは，ケーキが美味くないということではなく，このケーキはとんでもないくらい凄い，とても美味しいということになります。ちょっと字面だけでは，意味が分かりかねる場合があります。その時の表情とか会話の雰囲気まで汲んでいかないと，「やばい」の意味を取り違えてしまいそうです。

このように，言葉はこれからもどんどん変化していくのでしょう。インターネットの時代になり，流行ものは簡単に拡散していき，そのスピードも速いです。言葉の変化も，昔よりも簡単に広がって共有されていくのかもしれません。